北海道言語文化研究　　北海道言語研究会
No. 20, 1-19, 2022.

新約聖書「ペテロの第一の手紙」における裏返し構造*

大喜多　紀明

The Reversal Structure of the First Epistle of Peter in the New Testament

Noriaki OHGITA

要旨：本稿では、新約聖書に収納された「ペテロの第一の手紙」を題材に、裏返し構造の観点による構造分析をおこなった。従来、裏返し構造は、異郷訪問譚において特徴的にみとめられる構造であるとされてきた。本稿の目的は、異郷訪問譚ではないテキストにかかる構造がみとめられる事例を得るところにある。

キーワード：聖書　ペテロの第一の手紙　キアスムス　裏返し構造

1.　はじめに

大林（1979）によれば、異郷訪問譚では、構造上の「共通の約束」として裏返し構造がみとめられる[1]。この裏返し構造とは、キアスムスの下位の概念であり、物語の前半の要素と後半の要素が裏返しの関係にあるという特徴を持つ。大林仮説を受けた依田（1982）は、韓国の異郷訪問譚形式によるテキストを、大喜多（2018a）は異郷訪問譚形式として知られる芥川龍之介の小説「トロッコ」を、大喜多（2020a）は異郷訪問譚形式の日本の漫画「チェンジ」をそれぞれ分析し、かかる蓋然性が高いことをみとめた。一方、大林（1979）は、異郷訪問譚以外の物語にも裏返し構造がみとめられるかは明らかではなく、今後の検証課題とした。

以上を受け、筆者は、異郷訪問譚以外のテキストにはたして裏返し構造がみとめられる事例があるか、の調査をおこなったところ、聖書テキスト（大喜多：2017）およびアイヌ民族によるテキスト（大喜多：2016）において、かかる事例が存在することをみいだした。また、かかる異郷訪問譚以外に裏返し構造がみとめられることが、聖書およびアイヌ民族双方の特性に基づくという仮説を提示した[2]。

一方、3 節で示すように、これまでの一連の報告により、いくつかの聖書テキストには、

[1]本稿ではこれを「大林仮説」と呼ぶ。
[2]本稿ではこれを「対称性仮説」と呼ぶ。

異郷訪問譚とはいえないにもかかわらず裏返し構造がみとめられた。しかしながら、検証された事例は十分であるとはいいがたい。したがって、依然、かかる対称性仮説の前提となる、聖書テキストにはそもそも裏返し構造が出現しやすいのか、の分析的な検証は引き続きおこなわれる必要があるといえる。そこで、本稿では、現在まで検証されていない聖書テキストである「ペテロの第一の手紙」に注目し、まず当該テキストが異郷訪問譚といえるか否かの検証をおこなう。そのうえで、裏返し構造がみとめられるかの検証をおこなうことにする。なお、本稿で扱ったテキストの属性が深くキリスト教に関連しており、実際に、キリスト教の神学に関連するいくつかの文献を引用しているのだが、本稿は神学的な議論をおこなうことを目的としていない。

2. キアスムスの規模による分類と裏返し構造

キアスムスとは、構文上に下記のような対称性に富んだ構造がみとめられる修辞様式のことをいう。かかる呼称および使用について、森（2007）は次のように述べた。

> こうした交差配列は、およそいかなる言語世界にも見いだされ、古くは紀元前三千年紀のシュメール時代からすでに用いられている。たとえば、シュメールの諺のひとつ、「主人のように建てて奴隷のように住み、奴隷のように建てて主人のように住む」はABB´A´の形をとっている。
>
> 下ってローマ帝国の時代に、ヘルモゲネス（紀元二世紀のギリシア人修辞家）がこの手法を **χιασμός** と名づけ、爾来、＜キアスムス＞という呼称が修辞学的述語として定着して行くのである。

つまり、呼称はヘルモゲネスによるのであるが、形式自体はシュメールの時代から使用されていた。なお、下記の図式は便宜上 A～D、D´～A´といった前半の 4 種類の要素と後半の 4 種類の要素で表現したのだが、各要素の数は 4 種類には限定されない。キアスムスは前半と後半それぞれ 2 種類の要素によって構成される。

A→B→C→D→D´→C´→B´→A´

この図式の場合は、A と A´、B と B´、C と C´、D と D´がそれぞれ対応関係にある。また、下記のように、キアスムスの構造上の中央に位置する前半と後半の折り返し箇所に、対応関係を持たない要素が配置される場合がある[3]。

[3]本稿ではこの要素を「核」と呼ぶ。核はキアスムスの図式中では一般的に「X（ギリシャ語のカイ）」で示されるが、要素の他の箇所と連続したアルファベットを使用する場合もある。

A→B→C→D→X→D´→C´→B´→A´

研究者によってはこうした核のある構造を「集中構造」（例えば、森：2007）などと呼び、キアスムスと区別する場合があるが、核の有無を区別しない立場もある（例えば、Assis：2002）。本稿では核の有無による区別をせず、双方ともキアスムスと呼ぶことにする。さらに、こうしたキアスムス構造は、規模に基づいて、「ミクロキアスムス（micro-chiasmus）」、「マクロキアスムス（macro-chiasmus）」、「書籍レベルのキアスムス（book-level chiasmus）」に分類される場合がある。

まずミクロキアスムスとマクロキアスムスについて、Heath（2011）は次のように述べた。

> Mitchell Dahood is one of the first to draw a distinction between the different spans of chiastic structures. According to his distinction, “micro-chiasm” was used for simple structures with four members (ABB'A'), while “macro-chiasm” was used to refer to larger structures (1976:45). However, scholars are often inconsistent in the use of the terms (McCoy 2003:19; Aune 2003, s.v. “Chiasmus”; Gelardini 2007:4). In this study, I will use the term “micro-structure” for a phrase or sentence level chiastic structure which would generally be ABB'A' or ABCB'A'. Such structures tend to be short, often with only one word or phrase in each corresponding level. I will refer to a chiasmus that spans a larger chunk of discourse as a “macro-structure.”

また、書籍レベルのキアスムスについて Heath（2011）は以下のように述べた。

> In some analyses of biblical material, macro-structures may be combined to form a book-level structure. For example, Bertram (1965) as well as Luter and Rigsby (1996) propose chiastic structuring for the whole book of Ruth. Three NT books for which a book-level chiastic structure is commonly proposed are the book of James (Bullinger 1914/1990:1847; Welch 1981c:212; Wendland 2007), the book of Philippians (Luter and Lee 1995; C.W. Davis 1999; Heil 2010) and the book of Philemon (Welch 1981c:225; Heil 2001; Wendland 2008:232; Wilt and Wendland 2008:351).

つまり、キアスムスの規模に基づく呼称の分類が明確化されているわけではないことを前提に、Heath（2011）によれば、ミクロキアスムスとは ABB´A´という小規模のキアスムスであり、マクロキアスムスとは、例えばディスコースの塊にまたがるような、比較的大きな規模のキアスムスのことをいう。また、それ以外にも、書籍レベルのキアスムスもある。これには、例えば聖書に収納された一つの巻全体にわたるような構造化されたキアスムスがある。書籍レベルのキアスムスの事例として Heath（2011）は「ヤコブの手紙」、「ピリピ人への手紙」、「ピレモン人への手紙」を挙げた。それ以外にも、「ルカによる福音書」（森：2007）、「マルコによる福音書」（村井：2009）、「ローマ人への手紙」（森：1996）における書籍レベルの

キアスムスの存在が報告されている。なお、こうした書籍レベルのキアスムスがみとめられるテキストに、より小規模のミクロキアスムスやマクロキアスムスが併存する場合もある。

裏返し構造とは、キアスムスを構成する前半の要素と後半の要素がそれぞれ対照的な関係にあるもののことである。例えば、上述の図式の場合、裏返し構造では、A と A´、B と B´、C と C´、D と D´のすべてが対照的な対応関係である。それに対し、一般的に、キアスムスの場合は、すべてが対照的であるものも含むが、これに限定される訳ではない。つまり、裏返し構造は、キアスムスの構造上の下位の概念として位置づけられる。なお、本稿で裏返し構造について議論する場合、マクロキアスムスと書籍レベルのキアスムスに注目することとし、ミクロキアスムスについては検証の対象としないこととする。

3. 聖書にみとめられる裏返し構造

聖書は旧約聖書と新約聖書からなる。マクロキアスムスのレベルで裏返し構造がみとめられる事例は、旧約聖書においては、「創世記」に収納された、「失楽園」物語、「カインによるアベル殺害」物語、「ノアの箱舟」物語、「バベルの塔」物語である（大喜多：2017）。新約聖書では、「マタイによる福音書」に収納された、「イエス誕生」物語、「エジプト訪問」物語、「ヨハネによる洗礼」物語、「イエスが受けた試練」物語、「イエスのガリラヤ宣教」物語である（大喜多：2018b）。

また、旧約聖書は 39 巻、新約聖書は 27 巻により構成されているのであるが、書籍レベルの裏返し構造がみとめられた事例は、下記の新約聖書に収納された各巻である。なお、旧約聖書については、書籍レベルの裏返し構造にかんする検証はおこなわれていない。

巻	掲載論文
ルカによる福音書	大喜多（2018c）
テトスへの手紙	大喜多（2021a）
ピレモンへの手紙	大喜多（2019a）
ヘブル人への手紙	大喜多（2021a）
ヤコブの手紙	大喜多（2019b）
ヨハネの第二の手紙	大喜多（2020b）
ヨハネの第三の手紙	大喜多（2021b）
ユダの手紙	大喜多（2020c）

本稿で検証する巻は「ペテロの第一の手紙」であり、現在までかかる観点からの検討はおこなわれていない。

4. 異郷訪問譚

本稿の目的は、異郷訪問譚以外のテキストに裏返し構造がみとめられる事例を調査することにより、とりわけ聖書における異郷訪問譚とはいえないテキストに裏返し構造がみとめら

れる蓋然性が高いことを示す事例を提示するところにある。異郷訪問譚とは、通念に基づけば、主人公が、主人公にとっての異郷を訪問する形式による物語である。本稿では、勝俣（2009）に基づいて定義づけされた大喜多（2017）における定義を、本稿における異郷訪問譚の定義とすることにする。

大喜多（2017）では、下記の①～④のすべての特徴に該当する形式を持つ物語を異郷訪問譚とみなした。

①　：異郷訪問譚は、訪問者が訪問者にとっての異郷を訪問する形式の物語である[4]。
②　：訪問者は「カミ」か「人間」である[5]。
③　：訪問者は、特殊な方法・手段により、異郷を訪問する[6]。
④　：選ばれた者しか異郷を訪問できない[7]。

本稿でも特徴①～④を「異郷訪問譚の特徴」と呼ぶこととし、この異郷訪問譚の特徴をテキストに照合することにより、当該テキストが異郷訪問譚といえるか否かの判別をおこなうこととする。

5. テキスト

本稿では『聖書』（日本聖書協会：1989）に掲載された「ペテロの第一の手紙」をテキストとする。以下は、テキスト全文である。「ペテロの第一の手紙」は、伝承的にはペテロによるものとされるが、実際の著者は明らかではない[8]。なお、テキスト中には後述の Heil（2013）が採用したユニットを表示するための筆者によるアルファベット・記号を付した。また、『聖書』に付されている章節にかんする表示は省略し、かつ、適宜、筆者による改行をおこなっている。

［A/］イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤおよびビテニヤに離散し寄留している人たち、すなわち、イエス・キリストに従い、かつ、その血のそそぎを受けるために、父なる神の予知されたところによって選ばれ、御霊のきよめにあずかっている人たちへ。恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽

[4]本稿ではこれを「特徴①」と呼ぶ。
[5]本稿ではこれを「特徴②」と呼ぶ。
[6]本稿ではこれを「特徴③」と呼ぶ。
[7]本稿ではこれを「特徴④」と呼ぶ。
[8]便宜上、「ペテロの第一の手紙」の著者を本稿では「ペテロ」と呼ぶことにする。

ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試錬で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。この救については、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。彼らは、自分たちのうちにいますキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかしした時、それは、いつの時、どんな場合をさしたのかを、調べたのである。そして、それらについて調べたのは、自分たちのためではなくて、あなたがたのための奉仕であることを示された。それらの事は、天からつかわされた聖霊に感じて福音をあなたがたに宣べ伝えた人々によって、今や、あなたがたに告げ知らされたのであるが、これは、御使たちも、うかがい見たいと願っている事である。それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。［/A］［B/］従順な子供として、無知であった時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、「わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである」と書いてあるからである。あなたがたは、人をそれぞれのしわざに応じて、公平にさばくかたを、父と呼んでいるからには、地上に宿っている間を、おそれの心をもって過ごすべきである。あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。キリストは、天地が造られる前から、あらかじめ知られていたのであるが、この終りの時に至って、あなたがたのために現れたのである。あなたがたは、このキリストによって、彼を死人の中からよみがえらせて、栄光をお与えになった神を信じる者となったのであり、したがって、あなたがたの信仰と望みとは、神にかかっているのである。あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合いなさい。あなたがたが新たに生れたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によったのである。

「人はみな草のごとく、
その栄華はみな草の花に似ている。
草は枯れ、
花は散る。

しかし、主の言葉は、とこしえに残る」。
これが、あなたがたに宣べ伝えられた御言葉である。［/B］
［C/］だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。主は、人には捨てられたが、神にとっては選ばれた尊い生ける石である。この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によろこばれる霊のいけにえを、ささげなさい。
聖書にこう書いてある、「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して、失望に終ることがない」。
この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものであるが、不信仰な人々には「家造りらの捨てた石で、隅のかしら石となったもの」、また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。異邦人の中にあって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになろう。あなたがたは、すべて人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと、あるいは、悪を行う者を罰し善を行う者を賞するために、王からつかわされた長官であろうと、これに従いなさい。善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じるのは、神の御旨なのである。自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。［/C］［D/］僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。［/D］［E/］キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせ

ず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。［/E］

［F/］同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救に入れられるようになるであろう。あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。むかし、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、このように身を飾って、その夫に仕えたのである。たとえば、サラはアブラハムに仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、何事にもおびえ臆することなく善を行えば、サラの娘たちとなるのである。夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈が妨げられないためである。［/F］［E´/］最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう」。そこで、もしあなたがたが善に熱心であれば、だれが、あなたがたに危害を加えようか。しかし、万一義のために苦しむようなことがあっても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない。ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。しかし、やさしく、慎み深く、明らかな良心をもって、弁明しなさい。そうすれば、あなたがたがキリストにあって営んでいる良い生活をそしる人々も、そのようにののしったことを恥じいるであろう。善をおこなって苦しむことは―それが神の御旨であれば―悪をおこなって苦しむよりも、まさっている。［/E´］［D´/］キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救

うのである。それは、イエス・キリストの復活によるのであって、からだの汚れを除くことではなく、明らかな良心を神に願い求めることである。キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの権威、権力を従えておられるのである。［/D´］

［C´/］このように、キリストは肉において苦しまれたのであるから、あなたがたも同じ覚悟で心の武装をしなさい。肉において苦しんだ人は、それによって罪からのがれたのである。それは、肉における残りの生涯を、もはや人間の欲情によらず、神の御旨によって過ごすためである。過ぎ去った時代には、あなたがたは、異邦人の好みにまかせて、好色、欲情、酔酒、宴楽、暴飲、気ままな偶像礼拝などにふけってきたが、もうそれで十分であろう。今はあなたがたが、そうした度を過ごした乱行に加わらないので、彼らは驚きあやしみ、かつ、ののしっている。彼らは、やがて生ける者と死ねる者とをさばくかたに、申し開きをしなくてはならない。死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。不平を言わずに、互にもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力とが世々限りなく、彼にあるように、アァメン。［/C´］

［B´/］愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試錬を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。キリストの名のためにそしられるなら、あなたがたはさいわいである。その時には、栄光の霊、神の霊が、あなたがたに宿るからである。あなたがたのうち、だれも、人殺し、盗人、悪を行う者、あるいは、他人に干渉する者として苦しみに会うことのないようにしなさい。しかし、クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない。かえって、この名によって神をあがめなさい。さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか。また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者や罪人は、どうなるであろうか。だから、神の御旨に従って苦しみを受ける人々は、善をおこない、そして、真実であられる創造者に、自分のたましいをゆだねるがよい。［/B´］

［A´/］そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで、キリストの苦難についての証人であり、また、やがて現れようとする栄光にあずかる者である。あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それ

をしなさい。また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。そうすれば、大牧者が現れる時には、しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう。同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおり、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。どうか、力が世々限りなく、神にあるように、アァメン。

わたしは、忠実な兄弟として信頼しているシルワノの手によって、この短い手紙をあなたがたにおくり、勧めをし、また、これが神のまことの恵みであることをあかしした。この恵みのうちに、かたく立っていなさい。あなたがたと共に選ばれてバビロンにある教会、ならびに、わたしの子マルコから、あなたがたによろしく。愛の接吻をもって互にあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがた一同に、平安があるように。[/A´]

6. 「ペテロの第一の手紙」は異郷訪問譚といえるか

そもそも異郷訪問譚とは物語の形式の呼称であり、テキストはいわゆる物語ではなく、あくまでも手紙形式による文書である。したがって、テキストは通念に基づけば異郷訪問譚とはいえない。以上を踏まえつつも、本節では、テキストが異郷訪問譚といえるかの検討を、異郷訪問譚の特徴を照合することによりおこなう。

まず、特徴①についてである。このテキストは著者ペテロが信徒たちに対して送った手紙形式をとっており、物語ではないので、物語の主人公は存在しない。仮に、当該テキストは終始ペテロの思想が描かれているため、これを以て、テキストの主人公をペテロとみなしたとしても、ペテロは信徒たちを訪問している様子が描かれている訳ではないため、訪問者はいない。また、テキストにはペテロにとっての「異郷」は現れないため、当然に、かかる「異郷」への訪問もない。したがって当該テキストは、訪問者が訪問者にとっての異郷を訪問する形式の物語ではないため、特徴①には合致しない。特徴②についてである。そもそもテキストには訪問者がいないため、特徴②における訪問者が「カミ」か「人間」であるという規定には合致しない。特徴③についてである。やはり、そもそもこのテキストには訪問者が存在しないので、訪問者が特殊な方法・手段により異郷を訪問するという規定には合致せず、したがって、特徴③は当てはまらない。特徴④である。ここでの「選ばれた者しか異郷を訪

問できない」という特徴も、訪問者の存在が前提となっている。しかしながら、このテキストには訪問者が存在しないため、特徴④には合致しない。以上より、当該テキストは、特徴①～④として示された異郷訪問譚の特徴のすべてに合致しないため、異郷訪問譚とはいえない。

7. 「ペテロの第一の手紙」における書籍レベルのキアスムスアスムス

Welch（1981）は、当該テキストの構造をキアスムスの観点から分析をおこない、次のように述べた。

> 1 Peter, 1 John, 2 John and 3 John The remaining epistles of the New Testament to be discussed are 1 Peter and the Epistles of John. Chiasmus has not been detected in the general structure of any of these letters to any significant degree, which places these letters along with the few other nonchiastic epistle of the New Testament in a clear minority.

Welch（1981）は、「ペテロの第一の手紙」、「ヨハネの第一の手紙」、「ヨハネの第二の手紙」、「ヨハネの第三の手紙」には有意な書籍レベルのキアスムスが検出されず、かつ、当該手紙は非キアスムス的なテキストであると述べた。つまり、「ペテロの第一の手紙」にキアスムスがみいだされることについて Welch（1981）は否定的である。

一方、Heil（2013）は、「ペテロの第一の手紙」を、テキストに付したアルファベット・記号によって区分したうえで、下記の書籍レベルのキアスムス構造を提示した[9]。

A：1：1-13　*Peace in Attaining* the Salvation *To Be Revealed* by God
　B：1：14-25 Through Crist You Are *Faithful* for God with Purified *Souls*
　　C：2：1‐17 Offer Up Spiritual Sacrifices Acceptable to God *through Jesus Christ*
　　D：2：18-21a Endure Unjust Suffering on account of a *Conscience* toward *God*
　　E：2：21b-25 Crist *Did* No Sin or *Deceit* So That to *Righteousness* toward God
　　F：3：1-7 The Inner Human Being of the Heart Is of Great Value before God
　　E´：3：8-17 Do Not Speak *Deceit* or *Do* Evil But *Do* Good on account of *Righteousness*
　　D´：3：18-22 The Saving Water of Baptism Is a Pledge of a Good *Conscience* for *God*
　　C´：4：1-11 In All Things God May Be Glorified for Eternity *through Jesus Christ*
　B´：4：12-19 The Suffering Entrust Their *Souls* to the *Faithful* Creator in Doing Good
A´5：1-14 *Peace in Attaining* the Eternal Glory *To Be Revealed* by God

ヘイルの構造に基づけば、テキストは、A・A´、B・B´、C・C´、D・D´、E・E´の対応を持つキアスムス構造である。なお、F はこのキアスムス構造の核である。この Heil（2013）

[9]以下、本稿ではこれを「ヘイルの構造」と呼ぶことにする。

の知見は、Welch（1981）の見解と対立している。また、例えばヘイルの構造における B・B´にかんする Heil（2013）の説明を以下に示す。

> Repetitions of the terms “faithful” and “souls” provide the chiastic parallels between the B and the B’ units. The B’ unit concludes with the exhortation that “those who are suffering according to the will of God entrust their souls to the faithful Creator in good-doing”. The reference to God as “the faithful Creator” recalls the only previous occurrence in Peter of the adjective “faithful” in the description of the audience as those “who through him are faithful for God” in the B unit. And the B and B’ unit contain the only occurrence in Peter of the noun “souls” in the accusative plural— “having purified your souls” and “entrust their souls”.

Heil（2013）は、B・B´が「*faithful*（＝忠実さ）」と「*souls*（＝魂）」をキーワードとする対応関係であることを指摘している。その一方、B と B´が対照的な関係であるとの記載はない。つまり、テキストが書籍レベルのキアスムスにより構成されていることを Heil（2013）は指摘したものの、当該構造が裏返し構造であるかについては言及していない。

Heil（2013）以外に、テキストを、書籍レベルのキアスムスの観点から分析したものに、村井の web ページ（村井：2015.10.9）に掲載された資料がある[10]。以下が、当該ページに掲載されたキアスムスである[11]。

１．挨拶（1：1-12）
　２．聖なる生活をしよう（1：13‐2：10）
　　３．奴隷と夫妻（2：11‐3：7）
　　４．兄弟愛（3：8-17）
　　５．キリストの高挙（3：18‐4：6）
　　６．欲望を避ける（4：7-11）
　　７．長老と若者（4：12-5：7）
　８．悪魔への抵抗（5：8-11）
９．結び（5：12-14）

ここで示された村井の図式では、合計 4 組の対応と、中央の要素としての核がみとめられる。

ヘイルの図式と村井の図式は、双方とも書籍レベルのキアスムスである。ところが、双方の図式における対応の数や各ユニットの範囲が異なる。本稿では、ヘイルの図式を前提にしつつ、これに修正を加えた図式に基づき、裏返し構造の観点による検証をおこなうこととし、

[10]村井は「ペテロの第一の手紙」を「ペトロの手紙一」と呼称しているが、双方は同一のものである。
[11]本稿ではこれを「村井の図式」と呼ぶ。

村井の図式に基づく検証はおこなわず、かかる検証は別の機会におこなうこととする。

8. テキストの分析

前節で示したように、テキストは、ヘイルの図式で示される書籍レベルのキアスムスにより構成されている。一方、Heil（2013）はかかるキアスムスと裏返し構造の関連については言及していない。そこで、本節では、Heil（2013）が示したヘイルの図式が構成する各ユニットを前提としつつも、対応するユニットの関係性を裏返し構造の観点から再評価したい。

◆A と A´

まず、A には、ペテロから「ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤおよびビテニヤに離散し寄留している人たち」への挨拶が述べられている。続いて、信徒たちが「信仰により神の御力に守られている」存在であること、すでに「たましいの救を得ている」ことが示されている。さらに、かつての預言者たちが言及しているのが「あなたがた」についてであることが述べられて、「イエス・キリストの現れる時に与えられる恵み」を待望するように告げられている。つまり、A では、まずペテロから多くの種類の信徒らへの挨拶が書かれている[12]。続く部分は、信徒らの信仰的な立場の確認が書かれている[13]。

一方、A´には、信徒たちの長老への指示事項が告げられ、「あなたがた」の信仰姿勢にかんする指導が述べられている。最後に、「あなたがたと共に選ばれてバビロンにある教会、ならびに、わたしの子マルコから、あなたがた」への挨拶が書かれている。つまり、A´の前半部分は、ペテロによる信徒らへの指示と指導であり[14]、後半部分はペテロ以外の多くの人たちから「あなたがた」への挨拶である[15]。

◆B と B´

B には、ペテロによる信徒らに対する信仰のあり方にかんする指導が述べられていると同時に、信徒らがこうした立場に立つ前提が「キリストの尊い血」であり、かつ、キリストはこのことを「天地が造られる前」から認知していたことが書かれている。

一方の B´には、現時点で信徒らが被っている試練の捉え方にかんするペテロの指導が述べられている。同時に、これからの「神の家から始められる」裁きでの心構えが述べられている。

◆C と C´

C では、キリストが「神にとっては選ばれた尊い生ける石」であることが書かれており、

[12]これを「A①」とする。
[13]これを「A②」とする。
[14]これを「A´②」とする。
[15]これを「A´①」とする。

同時に、「あなたがたも、それぞれ生ける石」となるべきであることが描かれているように、信徒らがキリストの立場を受け継ぐべきであるというペテロの主張が述べられている。

一方、C´では、例えば「キリストは肉において苦しまれたのであるから、あなたがたも同じ覚悟で心に武装をしなさい」と書かれているように、信徒らがキリストの心のあり方を受け継ぐべきであるというペテロの主張が述べられている。

◆D と D´

D では、例えば「善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである」と書かれているように、信徒らの不当な苦しみとそれを克服することの意味が述べられている。

それに対して D´では、「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた」と書かれているように、キリストの不当な苦しみとそれがもたらす意味が述べられている。

◆E と E´

E には、キリストの「義に生きるために、十字架にかかって」いったという行為と、それがもたらした信徒らの癒しという結果が描かれている。

それに対して、E´には、信徒らの行為が、信徒らを「そしる人々」を「恥じい」らせるという結果をもたらすことが描かれている。

◆F

F には、まず、「妻たる者」へのペテロによる訓戒が書かれており[16]、引き続き、「夫たる者」へのペテロによる訓戒が述べられている[17]。

以上のヘイルの図式のユニットを踏まえた、本稿による再評価に基づいた図式を以下に示す[18]。

A①　挨拶（される側を列挙）

---

[16]これを「F」とする。

[17]これを「F´」とする。

[18]ヘイルの図式では A と A´が対応していたのであるが、本稿による再評価に基づいた図式では、かかる対応を、A①と A①´、A②と A②´という二種類の対応に切り分けられた。また、査読者の方の一人から、「キーワード」に基づくヘイルの図式では組み合わすことができない「A②と B」と「B´と A②´」が、ユニットごとの「文章の意味」に基づく本稿の図式では組み合わせ可能であるとご指摘された。以上は、分析の視点の差異が対応の様態形成に差異をもたらした事例であるといえる。

A②　信徒らへの言及（受容）
B　信徒らへの言及（過去）
C　キリストから信徒への継承（立場）
D　不当な苦しみとその意味（信徒ら）
E　苦難とその実り（キリスト）
F　訓戒（妻たる者へ）
F´　訓戒（夫たる者へ）
E´　苦難とその実り（信徒ら）
D´　不当な苦しみとその意味（キリスト）
C´　キリストから信徒への継承（心のあり方）
B´　信徒らへの言及（未来）
A②´信徒らへの言及（否定）
A①´挨拶（する側を列挙）

新たに構成された図式を構成する各対応の関係については次の通りである。

◇A①と A①´

ここでの A①と A①´は、ともに、「挨拶」がテーマである。ここで、A①では、挨拶される側が「ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤおよびビテニヤに離散し寄留している人たち」と列挙されている。対し、A①´では、挨拶する側が「あなたがたと共に選ばれてバビロンにある教会、ならびに、わたしの子マルコ」と列挙されている。そもそも、A①とA①´は、同一の手紙の巻頭と巻末に位置するものであり、たとえ、それぞれに掲載された人物に増減があったとしても､実際には､挨拶する側が巻頭と巻末で変化したとは考えられない。この点は、挨拶される側も同様である。つまり、A①では挨拶される側に注目し、A①´では挨拶する側に注目し、それぞれを詳細に描いているのであり、双方が注目する視点は対照的なのである。

	注目点
A①	挨拶される側
A①´	挨拶する側

◇A②と A②´

A②と A②´はペテロによる「信徒らへの言及」がテーマである。A②では、ペテロからみた信徒らの信仰的な立場を、信徒らに対して述べられている。それに対し、A②´では、信徒らへのペテロによる信仰にかんする指導が述べられている。双方とも、ペテロによる信徒らへの言及であるが、A②が信徒の現実の受容であるのに対し、A②´は、信徒らの現実はどうあれそれを受容するのではなく、未来はこうなるべきであると指導している。つまり、両

者は、現実の受容と現実の否定であり、対照的であるといえる。

	言及
A②	信徒の現実の受容
A②´	信徒の現実の否定

◇B と B´

B と B´も、ペテロによる「信徒らへの言及」がテーマである。B は、信徒らの背景的事情である。ここで、信徒らの前提である「キリストの尊い血」や、キリストにおける「天地が造られる前」からの認知は、いずれも「過去から現在」の時制に属するものである。それに対して、B´の「神の家から始められる」裁きは「現在から未来」の時制に属するものである。つまり、双方の言及は「過去から現在」と「現在から未来」の事象であり対照的である。

	言及
B	過去から現在の事象
B´	現在から未来の事象

◇C と C´

C と C´は、「キリストから信徒への継承」がテーマである。ここで、C は「生ける石」で象徴される「立場」の継承である。それに対して、C´は「心のあり方」の継承である。つまり、ここでの「立場」は形式であり、「心のあり方」は実質であるといえるので、双方は対照的である。

	継承
C	立場（形式）
C´	心のあり方（実質）

◇D と D´

D と D´のテーマは「不当な苦しみとその意味」である。ここで、かかる苦しみを被った存在が D では「信徒ら」であるのに対し、D´では「キリスト」である。「信徒ら」はそもそも宗教的意味での救済[19]の対象であったのに対し、「キリスト」は救済の主体であり、双方は対照的である。

◇E と E´

[19]本稿では、かかる宗教的な意味での救済を「救済」と呼ぶ。

EとE´は「苦難とその実り」がテーマである。ここで、かかる「苦難とその実り」は、Eでは「キリスト」によるものであり、E´は「信徒ら」である。ここでの「キリスト」と「信徒ら」は、DとD´の場合と同様、救済の主体と対象であるといえるので、双方は対照的である。

◇FとF´

FとF´のテーマは「訓戒」である。ここで、Fにおける「訓戒」の対象が「妻たる者」であるのに対しF´の対象は「夫たる者」であり、双方は対照的である。

以上より、A①とA①´、A②とA②´、BとB´、CとC´、DとD´、EとE´、FとF´の関係はすべて対照的であるので、この構造は裏返し構造である。ここで、Heil（2013）によればA・A´は単独の対応であったが、本節の分析によれば、A①・A①´およびA②・A②´をそれぞれ独立した対応とみなした。かつ、Heil（2013）ではFに対応をみとめなかったが、本節の分析では、F・F´の対応からなると評価した。以上を踏まえると、テキストは、合計7対の対応に基づく裏返し構造である。

9．おわりに

一般的に、異郷訪問譚では裏返し構造がみとめられる。また、1節で述べたように、異郷訪問譚とはいえないテキストにおいても、アイヌ民族を話者とするものや、いくつかの聖書テキストにおいてみとめられている。また、筆者は、裏返し構造が発現する機序を明らかにすることを目的に、聖書テキストにどの程度裏返し構造がみとめられるかの調査をおこなってきた。本稿では、現在まで調査がおこなわれていない巻である「ペテロの第一の手紙」を分析することにより、はたして当該テキストに裏返し構造がみとめられるかの検証をおこなった。

前節で述べたように、テキストの裏返し構造は合計7対の対応からなる。そもそも裏返し構造はキアスムスの下位の概念であるので、テキストは7対の対応に基づくキアスムスであるともいえる。一方、Heil（2013）によれば、テキストは合計5対の対応によるキアスムスであった。

Heil（2013）の分析は、例えば、AとA´では「*Peace in Attaining*」と「*To Be Revealed*」、BとB´では「*faithful*」と「*souls*」という頻出する、あるいは特徴的な言葉を因子として対応の如何が決定されている。この点は、ヘイルの図式の他の対応でも同様である。このことは、キアスムスの各対応の成立の如何を判別する場合には、こうしたキーワードに注目した手法が有効であることを示している。一方、本稿の分析の目的は、テキストが裏返し構造であるかを判別するところにある。つまり、裏返し構造の場合、該当する対応箇所の意味が互いに裏返しの関係にあるかに注目することにより、かかる判別が可能となる。したがって、本稿の分析では、頻出する、あるいは特徴的な言葉には注目せず、むしろ文章の意味に注目したうえで対応について検討した。ヘイルの図式のFについては、Heil（2013）は要素の意

味を「The Inner Human Being of the Heart Is of Great Value before God」と説明しているのだが、本稿の場合は、当該箇所が異なる二種類の対象に向けてのパウロの言及であることから、「妻たる者」への「訓戒」と「夫たる者」への「訓戒」という二種類の要素に切り分けた。こうした分析の視点の差異が、Heil（2013）と本稿のキアスムス構造の様態の差異を生じさせるといえる。そもそも、本手法による検証には恣意が介入しやすいという課題がある。以上は、キアスムスを構成する対応が何を因子とするのかにより、キアスムスの様態そのものに影響を与えた事例であるといえる。こうした恣意性をいかに排除するかは、本稿における方法論上の課題である。また、他のテキストについても、何を因子とするかによりキアスムスの様態が変化するかについても、今後確認するつもりである。

本稿では、以上のように、「ペテロの第一の手紙」の書籍レベルのキアスムスが裏返し構造でもあることが確認できた。だが、先行研究を含め、確認できた事例は未だ十分とはいい難い。筆者としては今後も引き続き検証を続けるつもりである。

引用文献

大喜多 紀明、2016、「アイヌロ承テキストに見られる裏返し構造：異郷訪問譚によらない事例」、『北海道言語文化研究』、(14)、45-72、北海道言語研究会。

大喜多 紀明、2017、「聖書「創世記」冒頭の 5 つの物語の構造：異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例」、『北海道言語文化研究』、(15)、195-216、北海道言語研究会。

大喜多 紀明、2018a、「芥川龍之介『トロッコ』の裏返し構造：良平の「新生」場面の機能」、『国語論集』、(15)、45-52、北海道教育大学釧路校国語科教育研究室。

大喜多 紀明、2018b、「新約聖書「マタイによる福音書」の冒頭に配置された 5 つの物語の構造：「対称性仮説」の蓋然性」、『北海道言語文化研究』、(16)、25-48、北海道言語研究会。

大喜多 紀明、2018c、「ルカによる福音書 9 章 51 節～19 章 46 節にみられる裏返し構造：対称性仮説に関する検証に向けて」、『人間生活文化研究』、(28)、610-618、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2019a、「新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造」、『人間生活文化研究』、(29)、293-298、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2019b、「新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造：「物語」とはいえないテキストの事例」、『人間生活文化研究』、(29)、15-21、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2020a、「小山ゆう『チェンジ』にみられる裏返し構造：漫画作品における異郷訪問譚の事例」、『人間生活文化研究』、(30)、146-150、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2020b、「新約聖書に収納された「ヨハネの第二の手紙」の構造：裏返し構造をあてはめる観点からの分析」、『人間生活文化研究』、(30)、308-311、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2020c、「新約聖書「ユダの手紙」にみとめられる裏返し構造」、『人間生活文化研究』、(30)、353-357、大妻女子大学人間生活文化研究所。

大喜多 紀明、2021a、「新約聖書テキストにおける異郷訪問譚と裏返し構造の関係：「テトスへの手紙」と「ヘブル人への手紙」の場合」、『人文×社会』、(4)、印刷中、『人文×社会』編集委員会。

大喜多 紀明、2021b、「新約聖書「ヨハネの第三の手紙」にみられる裏返し構造」、『人文×社会』、(1)、451-459、

『人文×社会』編集委員会。

大林 太良、1979、「異郷訪問譚の構造」、『口承文芸研究』(2)、1-9、日本口承文芸学会。

勝俣 隆、2009、『異郷訪問譚・来訪譚の研究―上代日本文学編』、和泉書院。

日本聖書協会、1989、『聖書』、日本聖書協会。

村井 源、2009、「マルコ福音書の多層集中構造」、『日本カトリック神学会誌』、(20)、65-95、日本カトリック神学会。

村井 源、2015.10.9 作成、“ペトロの手紙一の修辞構造”、http://bible.literarystructure.info/bible/60_1Peter.html（2021 年 11 月 28 日閲覧）。

森 彬、1996、「ローマ書全体の集中構造について」、『神学』、(58)、146-178、東京神学大学。

森 彬、2007、『ルカ福音書の集中構造』、キリスト新聞社。

依田 千百子、1982、「韓国の異郷訪問譚の構造」、『口承文芸研究』(5)、47-57、日本口承文芸学会。

Assis, E. (2002). Chiasmus in Biblical Narrative: Rhetoric of Characterization. *Prooftexts*, 22(3), 273-304.

Heath, D. M. (2011). *Chiastic structures in Hebrews: A study of form and function in Biblical discourse* (Doctoral dissertation, Stellenbosch: University of Stellenbosch).

Heil, J. P. (2013). *1 Peter, 2 Peter, and Jude: Worship Matters*. Wipf and Stock Publishers.

Welch, J. W. (1981). *Chiasmus in the New Testament. Chiasmus in Antiquity: Structures, Analyses, Exegesis*, 211-249. Maxwell Institute Publication.

執筆者紹介

氏名：大喜多 紀明

Email：ohkitan@yahoo.co.jp